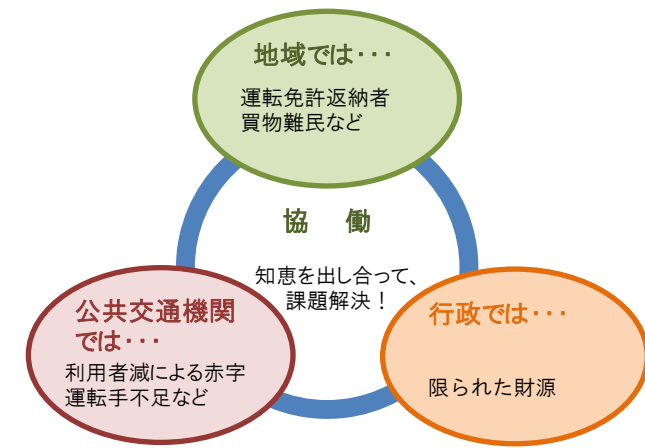
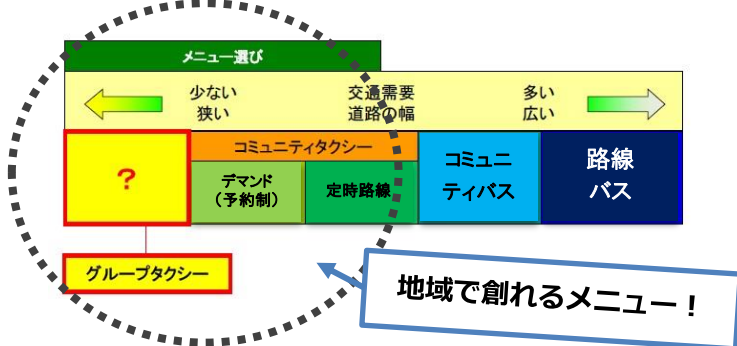


【公共交通を取り巻く課題。ともに取り組みましょう！】



【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



山口市の主な支援制度

- 相乗りするほどお得なグループタクシー利用券...65歳以上で最寄りの公共交通機関から1km(75歳以上700m)以上離れている方に距離に応じて300円、500円、700円の利用券を年間60枚交付
- 福祉タクシー利用券...障害者手帳をお持ちの方に300円の利用券を年間40枚または80枚交付
- おでかけサポートタクシー券...要支援・要介護認定を受けている方、介護予防・日常生活支援サービス事業対象者に300円の利用券を年間40枚交付(グループタクシー・福祉タクシー・おでかけサポートタクシー利用券の重複申請は不可)
- 福祉優待バス乗車証...70歳以上、市内の路線バスに限り乗車100円
- サイクル・アンド・ライド、パーク・アンド・ライド(乗り換え専用の駐輪場・駐車場)
- ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引、協賛店舗での特典サービス
- バス停上屋設置の補助金
補助対象経費の2/3以内、
補助限度額70万円

詳細は、山口市交通政策課までお問い合わせください!

創ろう!守ろう!みんなの公共交通 地域検討会 かわら版

徳地編
平成29年5月発行



参加者アンケートより<15名回答>

Q地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか?

- ①深まった 10人
- ②どちらともいえない 5人
- ③深まらなかった 0人

Q公共交通を利用しようと思えますか?

- ①引き続き利用する 2人
- ②これからは利用する 5人
- ③わからない 4人
- ④利用しない 3人

Q公共交通を守る必要を感じましたか?

- ①感じた 14人
- ②どちらともいえない 1人
- ③感じない 0人

Q地域での話し合いの必要性を感じましたか?

- ①感じた 12人
- ②どちらともいえない 3人
- ③感じない 0人

【感想(抜粋)】

- 公共バスを利用する際、医院や買い物ができる所で乗り降りできる便を作してほしい。
- 料金(高い)と時間(経路が長い)の問題(都市では、市バス...市内どこまで行っても240円とか300円とか一律になっている。)
- 利用料金が低い。利用ポイント制による補助
- 地域検討会へ出席して改めて地域の交通手段を考えていきたいと思えます。
- 無関心に暮らしてきた公共交通について考えることができ、有意義な時間となりました。
- 大変良い会でした。知らないことも多くあったが、良くわかりました。今後とも皆で考えていきたいと思えます。
- 「してほしいこと」より「できること」を考える時代だと思いました。

今後に向けて地域の話し合いを応援します!
詳細は、交通政策課にご相談ください。協働推進課とも連携し、専門家のサポートも受けられるように調整します。

山口市では、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から山口市では「山口市市民交通計画」を平成19年に策定し取り組んできました。

その中で、交通弱者のためになんとかしたいという思いから、コミュニティタクシーの運営組織(小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地)が立ち上がり、地域が主体となり、地域のニーズにあったコミュニティ交通が整えられました。また、更なる交通弱者への対策としてグループタクシー(相乗り)の仕組みも新設しました。あわせて、都市核、地域核間を結ぶバスや鉄道についても維持強化を図ってきたところです。

しかしながら、鉄道や路線バス等の利用者の減少や、運転手の不足により、路線の廃止や減便につながっている状況です。一方で、これからの高齢社会の中での運転免許返納者が増えるなか、ますます困る人が増えると推測されます。また、移動手段を持たない若者や通勤者にとっても、公共交通は移動手段として必要不可欠なものです。

この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口」から「クルマがなくても生活できる山口」に転換し、安心して住み続けられる、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指して、「第二次山口市市民交通計画」を平成29年度中に策定することとしています。

そこで、地域の皆さんに現状を理解していただくとともに、地域の事情やニーズをお伺いし、より良い交通のあり方について、一緒に考えていくため、市内を10ブロックに分けて、去る3月に地域検討会を開催しました。

3月22日（水）徳地地域交流センターにおいて、17名の参加のもと、地域検討会を開催しました。

最初に山口市市民交通計画についてご説明し、現状の課題をわかちあい、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイデアを出し合いました。その概要をお伝えします。

この検討会を契機として、各地域の機運が高まり、それぞれの地域にあった地域公共交通を検討するための、二回目、三回目の勉強会につなげていきましょう。



なぜ今公共交通なのか・・・

現在車を運転している人のうち、4人に3人は将来運転し続けることに不安を感じているという統計結果がある。マイカー依存社会は無理の上に成り立っている。

5年後・10年後に向けた公共交通への期待は大きい。しかし「今」はクルマの運転に困っていないところに課題。今、5年先のことを考えて行動しなければ。

- ・山口市民の7割が1年1回(1,000円)公共交通を利用するだけで守れる！
- ・クルマは乗らなくても1日約1,700円かかる(購入費、税金、保険、車検、駐車場代)

10年前、移手段に関する切実な思いをこの徳地で伺って、前計画の考え方につながった。今、車に頼った状態で、さらにこのまま5年後、10年後迎えるとなると、本当に不安を感じている方が動けなくなってしまう。

公共交通を考えることは、まちづくりを考えること。われわれ専門家も全力で応援します！



交通ジャーナリスト 鈴木文彦氏



難しい課題のときは、地域の強みを考える！

人口は減るが、徳地では子どもの割合は相対的に増えている。強みだ。

だったら、今、子どもを送っているお父さん、お母さんを支えることが重要ではないか



大阪大学教授 森栗茂一氏

若い世代のために・・・
堀-防府の路線は皆で大切に守ろう！

地域を変えるのは女性の声
とそれから子どものことを考えたときの親の声！

■現状をわかちあう！■

- ▶ 生活バスの充実を
生活バス等利用率で判断せず、継続して欲しい
阿東生活バスの路線を祖父まで延長して欲しい
徳地生活バスを下庄、上河内、間方、船路東まで延長して欲しい
- ▶ バスの不便さ
バス停が遠い
山口行きが引谷回りで不便
もともとバスの路線外なのでバスに乗る習慣がない
防府まで100円で行けるように便数が少ない。
希望時間の運行が少ない
乗継が不便
山口へ行けない
荷卸峠経由途中バス停があったら人が乗ったかもしれない
山口へ行く手段が分からない
防府⇄堀のバスは大事
山口市内で飲食すれば夜間帰宅が困難だが、防府市内であれば20時30分までであるのでよい
- ▶ 若い人のために
高校生は通学費が負担
- ▶ 不安
認知症で免許返納になったらどうしよう
今はいいけど...
- ▶ やっぱ車がいい
車だと時間がある
自家用車以外考えた事がない

■アイデアいろいろ■

利用促進策 ~次世代を担う世代のために~

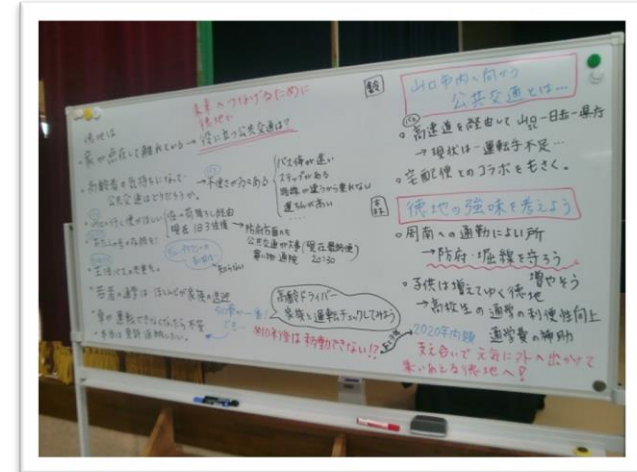
生活バス、グループタクシー、コミタク？住民が知ることから始まるのでは？

高校生の通学費補助

二種運転免許で可能となる車両で、運転手は地域から出す

コミタクとスクールバスを一緒にする

公共交通のこれからを考えるには、バスに乗って知ることからはじめたい。公共交通への関心、習慣化へ



クルマがないと生活できない山口から
クルマがなくても生活できる山口へ

できたらいいな

串地区でコミタクを検討したが、堀へは乗継必要とのこと。堀まで直行出来るようになれば

電話一本で家まで迎えにいけるシステム

~誰もが安心して暮らせるための交通まちづくり~

■公共交通は社会のインフラ

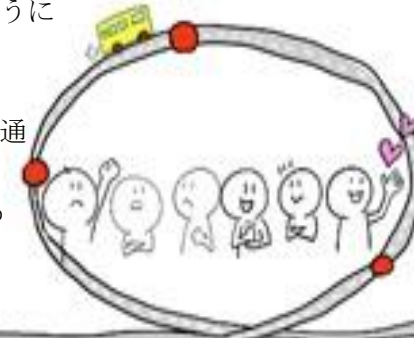
- ・公共交通を考えることは、まちづくりを考えること
- ・誰もが自分の意思で移動できるように(高齢者・子育て世代・高校生)

■集い歩くことが賑わいに

- ・生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
- ・多少の不便も「健康増進」と割り切る

■こどもの教育

- ・こどもの社会との関わりが増す



公共交通の利用促進の啓発！
地域ニーズの把握！
地域での話し合い！

みんなで創る
持続できる
地域の交通！

